

※滞在許可証の取得を一区切りとし、今回から気分も新たにブログ風で始めます。

(今回からタイトルと文体を変えてみました)

◆11月3日、日本では文化の日だが、冬時間になり8時間遅れのボローニャは平日の雨だった。火曜日なのでいつもの清掃の人が来る。いつも通り8時30分に部屋を出て、バスを待っていた。この日はひどく渋滞していてバスも満員。一本やり過ぎて、次のバスに乗った。15分違いとは言え、それほど混でなく、余裕で立つことができ、雨で曇って外が見えない車窓を眺めながら、いつもの Rizzoli バス停で降りた。いつも通り due torri 近くのマクドナルドで、cappuccino と dolcetto 合計 1.7€ で朝食を済ませ、少しの間外を眺めていた。

雨のせいかもしれないが、3月末にボローニャに着いてからのことが次々に浮かび上がり、多くの失敗や勘違いなどで生じた様々なことが思い起こされた。身体は、やはり年齢のせい、先月末の滞在許可証取得の疲れが徐々に出ているようで、何となくダルく感じられ、活発な湧き立つような気持にもなれなかった。まるで隣のテーブルで世間話をしている老人たちの仲間の一になったような気分で、カップに半分ほど残った cappuccino を味わっていた。珍しく砂糖を入れたので甘く、良味であった。

人間とは全く偶然のことをあたかも必然のように思い、自分を守ろうとするのであろうか。どうして先月末という切りの良いところで、外国人にとって最大の難関たる滞在許可証を取得できたのであろうか。もっと云うならば、Questura のホームページからこの件を調べるという情報を、どうして先月に得たのであろうか。その日は8月24日に第1回の出頭を終えてほぼ2カ月たった時点であったことも、いわば順調な待ち時間を意味している。そして月が改まって11月に入った。滞在期間は残り5カ月である。

あまりにも切りが良い。これは偶然ではなく、今から短期留学と思って気持ちを新たにして頑張らなさい、という誰かからのメッセージではないだろうか。滞在許可証の取得と近況報告を Illuminati 教授にして、その返信も11月3日の早朝に届いた。許可証取得への祝福と、今後の5カ月間で何か問題があればいつでも研究室に連絡するようにとのメッセージであった。

そう、つまりリセットしなさい、ということなのだ。リセットという非人間的な表現は好きではないし、本来人の気持ちや過去など割り切れるものではないが、この場合リセットという表現がもっともぴたりくる。気持ちの切り替えというと、やはり過去との連続がありアナログ的に思えるが、リセットというと過去をいったん終わりにして決別するという、デジタル的な感じをもつのだ。もちろん実生活ではリセットなど不可能であり、例の郵便局の人も他の誰かも、私を見れば過去との関連を思い出すだろう。その影響も出てくるかもしれない。その中でリセットなどいかにほどの意味があるのかは分からないし、お世話になった人達への感謝も、迷惑をかけた人達へのお詫びも忘れない。しかしもともと何のコネクションもなくたった一人で降り立った地なのだ。とにかく自分一人にいるときにはリセット気分で行こう。そう思うと気持ちが楽になる。

まるで初めてこの地に到着した新人のように。そうしよう。これから新しく始まるのだ。残り 5 か月をいかに過ごすか、考えてみよう。そう思うと元気が湧いてくる。

雨の Antonio Cicu で学生たちに囲まれたテーブルの隅っこで、誰にも知られず一人気持ちをリセットし、目の前の仕事を始めた。過去から引きずっている英文和訳の再吟味である。早くこれもリセットしたいのだが……。気がつけば雨が上がり窓から陽光が降り注いでいた。昼食に行こう！

◆最近自炊が多くなった。自炊と云っても茹でたパスタにラグーを混ぜ、切ったセロリとトマトにオリーブオイルとハーブ入り岩塩をかけて終わりという大変に簡単なものだ。



でも何かが足りない。そうだビタミンだ。しばらく前まではビタミン入りと表示してあるオレンジジュースを買っていたが、例の冷蔵庫オレンジ色事件以来まったく買うのを控えていたのだ。でも何を買ったらよいのか皆目見当がつかない。とりあえずバナナを買ってみたが、どうもピンとこない。やはり柑橘類でないと、これからやってくる寒い冬を、風邪をひかずに耐えることなどできないのでは、と思った。

帰宅のため Martini バス停で降りた。ちょうど目の前にフルーツ店がある。店の奥には大ぶりで質のよさそうなものが並んでいたが、軒先には熟れきって日持ちのしないフルーツ達が並んでいた。そのなかに susina(西洋スモモ=プラム)が、がさっと、まさに無造作にひと山当たりで売られていた。1kg で 0.99€。ちょっと触ると、熟れ過ぎで柔らかい。明日、明後日には傷んでしまうのだろう。そう思ったが、安さに負けて購入してしまった。店主が秤にかけたら 1.01€。でも 1€にしてくれた。小ささまざまな大きさのプラムが混在していたが、どれもよく熟れてて甘い。この熟れ方、というより売れ残り方は個人店ならではののだろう。これで 1 週間はもつかもしれない。

◆知人から木刀が届いた。私が柔術を教え始めたが、こちらには良い木刀がないと嘆いていたのを覚えていてくれたらしい。しかも白樫と赤樫の 2 本である。手に取るとしっくりくる。これまではこちらの柔道場にあった地元産の木刀を借り受けていたが、ただ重いだけで、バランスも良くない。もちろん日本から取り寄せて、寸法を測って同じように作成したのだろうけど、出来ははっきり言ってよくない。

部屋で 3 本の木刀を眺めている。日本製はバランスもよく軽い。地元産は重い。重ければト

レーニング用によいかもしいない。でも落とし穴がある。重いと振り下ろしたとき意識せずに腕が伸び、柄を絞った錯覚になる。木刀の重さでまっすぐに振り下ろされているからだ。そのあと軽い日本製を振ると、驚くほどまっすぐ振り下ろせない。軽いから簡単に扱えるが、その反面、木刀の重さで隠されていた自分の癖や不十分さが如実に表れてしまうのだ。軽い日本製を振る時は、明らかに多くのことを意識して修正しながら、確認しながら扱わないと、正しい振り方にはならない。

この扱いやすさに、その人の姿が現れるのだろうか。木刀に限ったことではない。自動車もそうだがインターネットも、誰でもがすぐに使用できるようになって、その人の癖が無修正のまま放出されている。誤った情報、他人(ひと)のプライバシーまで入り込んだ内容、誹謗や中傷、挙句はウィルスのばら撒きなど、その人の認識の甘さや知識不足、あるいは内面に潜んでいた悪意などが、インターネットやパソコンという扱いやすい軽い木刀を使って他人に迷惑をかけ、傷つけ続けている。木刀は物理的に身体を傷つけるが、インターネットは他人の内面を傷つける。ときには経済的損失を生み出すこともある。それによって身体的に終わりに向かう人も出てくる。

木刀を使うには稽古が必要であり、使い方だけでなく心構えも訓練される。インターネットも同じではないかと思う。大変に便利なものだが、もっと心構えとルールをきちんと稽古(教育)しなければならないのではないだろうか。もちろん今の経済活動から云って、パソコンやインターネットを許認可制のもとに置くことなど不可能であろう。でも何か考えなければいけないのではないと思う。訓練が必要なほどに扱いづらいものもあってよいのではないだろうか。

外は雨が降り出した。ボローニャの冬の雨は冷たすぎる。インターネットのシャワーが冷たい雨にならないように、自分自身の使い方も反省してみよう。他人に凍りつくようなシャワーを知らずに浴びせていたかもしれないから。そのようなことを、これからしないためにも。

◆夕方 4 時になった。Cultura Italiana に行く前に腹ごしらえをしよう。大学に向かう Via Zamboni では、例のドットーレ・ドットーレの歌が聞こえている。仲間が卒業できたのだろう。



Via Zamboni(due torri 側からの入口)

さて学食(mensa)は開いていない。有名な書店 Feltrinelli の前でそのようなことを思っていると、目の前に due torri. そうだ Due Torri に行こう!決して、あの塔に登ろうというのではない。それは私にとって拷問に近いものだから。自分で自分に拷問を課すなど、とんでもない。そうではなく、ピザのお店である。その名前が Due Torri と云うのだ。2 本の塔の due torri を挟んで

Feltrinelli のほぼ反対側にある。ここのお店は、円形のピザを 6 等分して、一片ずつ売っているのだ。最近では生地が厚く、四角形のピザが多く出回っているが、ここは日本人が想像する伝統的な形をそのまま残している。しかも安い。味もよい。結構な年配者もよく来ている。そこで私も何度か足を運んでいるが、未だにピザの名前が覚えられない。マルゲリータと……もう駄目だ。だからいつも、目の前に並んでいるものから、これ下さい!っといって買うのだ。だから安いものしか買えない。今日も 1.5€。でもこれで満たされる。名前の分からないピザを頼張りながら、名前を知らないことがどれほど問題か考えたが、ピザを食べ終わる頃になるとどうでもよくなって、その記憶もゴミと一緒に捨ててしまった。さてイタリア語の授業に行こう。



Feltrinelli



Due Torri

◆Piazza Maggiore を歩いていた。私がよく読むこの街に関するブログがある。ボローニャ在住の日本人が書いているものだ。私の知っている場所やお店、通りなどがよく出てきて、なぜか少しうれしくなる。何かを共有しているという感覚なのだろうか。でもその人とは一度も会っていない。会っていないというよりも会えないのだ。この街の同じ場所を何度も共有しているのに。そうなのだ、時間が違うのだ。その人の時間と私がそこにいる時間が違うことが、交差できない理由なのだ。

そう思うと、今私の目の前にいる人たちの世界と私の世界は、果たして同じなのだろうかと思う。答えは「違う」であろう。同じものを見ても、その人の人生経験や、年齢、社会的地位、今の状態つまり観光旅行か住人かと言うような違いで、おそらく全く異なる世界に見えるのだろう。昔、客観などなく、結局はすべて主観であり客観とは間主観である云々といったことを勉強したような気がするが、そのような話はとりあえず置いておきましょう。

とにかく、そう考えるとこの世には人の数だけ世界があることになる。それは今という時間帯では、個々人の相違によって区分され、それ以外は時間が世界を分けているのではないだろうか。いくつもの世界がいくつもの時間によって折り重なるようにして交差しつつ存在しているのが「今」という時間世界なのだ。このようなことは新しい発見でも何でもない。もうアニメや SF 映画の世界では、当たり前すぎるくらいになっている。

しかし、一人の人間の生きられる時間内で考えると、折り重なる数々の世界を貫いているもの

がある。拘束力である。権力による決定と言ってもよいかもしれない。少なくともわれわれが生きているような範囲内では、各人の異なる世界や、異なる時間世界など関係なく、共通して拘束力を持っているのだ。私も、私とは異なる時間世界に生きる人も、異なる場所世界に生きる人も、この権力の適用範囲内においては、それらに無関係に拘束力を発揮しているのである。

これも改めて驚くようなことではない。法学部の新入生は必ず、時・場所・人ごとの法の効力について学ぶ。いわばそのことでもあるのだ。しかし、少し考えると、これまでは時・場所・人の方から拘束力を考えていたようであるが、反対に拘束力の方からこの 3 点について考えたらどうなるのか。「結局は同じだよ」という人もいるかもしれないが、何となく違うような気がする。しかも拘束力を単に法規範だけに限定せずに、もっと拡大してみたら、これまでとは異なる構図を描けるのではないだろうか。そうすると法学の範囲ではない、という人も出てくるだろう。それはそれでよい。すでに解決済みのことを、改めて疑ってみるのもよいではないか。

ボローニャという同じ街にしながら、時間世界と場所世界を異にするブロックの書き手を思いながら、次年度から担当するであろう、法学入門をどうするか、法技術にはしらず、もっと違う何かを教えることはできないだろうか、などと似合わないことを考えていたら、クシャミがひとつ出た。ネプチューンが笑っているようだった。



Sala Borsa(左の建物)とネプチューン像

◆今日は月曜日。雨の月曜日だ。どうも身体がダルい。思えば金曜日に柔術の稽古、続く土曜日午後 3 時半から 6 時過ぎまで、特別に依頼されて柔術の稽古をしたのだ。特に金曜日は多くのちびっ子たちがいたので、ちょっとサービス気分になり、木刀を振る中をちびっ子たちが逃げるといふ、彼らからすれば鬼ごっこのようなことを、約 30 分も休みなく続けてしまった。後日に聞いた話では、その夜、ちびっ子たちは大喜び、大はしゃぎで、帰宅してからもずっとこの話をしていたとか。それは良かったのだが、私としては大変に疲れてしまった。しかも翌日の稽古の最後に、参加者が自分たちもやってみたいという。断るわけにはいかず、また大の大人を相手に、ということとはちびっ子たちを相手にするよりも真剣かつスピードも増さなければならないが、これも 30 分余り続けてしまったのだ。もう身体が譁々である。

帰宅してすぐに寝ようと思ったが、外がやましい。そうなのだ、その日は近くの stadio でサッカーの試合をしていたのだ。そのためバスは臨時運休。夜中まで酔っ払いが外で騒いでいた。眠れない。で、日曜日は一日中部屋に閉じこもって、蒲団にくるまっていた。翌日の月曜日は雨



だ。お昼近くまでベッドに潜り込んでいたが、今日の柔道の稽古は休もうと思い、SMS を…携帯が機能しない。色々操作しても、電話さえも機能しない。これはプリペイド式の金額が切れたのか?ならば再入しなければだめだ。大家さんに、どこかお店を知っているか聞いたら、ウーヘン知らない…。ならば街に出なければならない。

TIM(携帯屋さん)のお店の人がしばらく私の携帯をいじっていたが、なぜか元に戻った。何かがズレていたらしいのだが、良く分からない。でもそれでよしとした。



ついでに街に来るといつも行く Borsa(カバン)のお店のショーウインドウを覗いてみた。そこには、私がこの街に来てから、ずっと欲しいと思っているカバンがあるのだ。総革製のちょっとカラフルな四角い形のものだが、すぐに購入するには高額過ぎる。高額と言っても何十万円もするものではなく、ちょっとだけ高いだけなのだが、それでも、これください!つとは言い出せない何かがある。そう、きっかけなのだ。どのような切っ掛けがあれば、このカバンを購入できるのだろうか。今のカバンが壊れたら…帰国の時…クリスマスの自分へのプレゼント…(この歳で)お正月のお年玉代わり…イヤイヤどれもダメだ。いつもこんなことを思いながら、そのカバンを眺めている。今日も眺めるだけで終わり。いつか買える時が来るのだろうか。coop でお惣菜でも買って帰ろう。

◆別件で Borsa を買うために、あのいつも眺めているだけのお店に行った。私ではなく、日本にいる家族のために買うのだ。切っ掛けができたので、意気揚々である。前々から機能的と思っていたカバンがあったので、それを目当てに来たのだ。そしてまだショーウインドウに陳列してあった。よし!と思ってドアを押したら、ちょうどお昼休み。12時30分から15時30分までは開いていない。私は13時に行ったのだ。これから2時間半も何をしようか、とにかく待たなければならない。



がっかりしていると、急に入口が開き、お店の女性が「何か御用?」と。すかさず、あの borsa が見たいのですけど、という、分かったわっと言って、それを取り出し、店内に入るように云われた。目的通りその borsa を購入すると、彼女曰く、貴方がいつもカバンを見ていたのをチャンと知ってたのよ、いつか買いに来るだろうと思っていたわ、だからお昼休みだけど開けたのよ、という。私が見ていたのは別のカバンだったのだけど、この際良しとしよう。お店から出るとき、貴方日本人?、はい、じゃあ「ヨクオコシクダサイマシタ。アリガトウゴザイマシタ。」っと完璧な発音で言って、コロコロと笑って、じゃあまたいらしてね、Ci vediamo!!であった。

なぜかちょっとだけ嬉しくもあり恥ずかしくもあり。でも、これからまたあのカバン目当てにショーウインドウを覗いていたら、なんて思われるだろうか。まずはこれを日本に送らなければ。

◆リセットと云えば、私のホームページもリセットしなければならない。最初はただ授業に使う資料を配布する代わりに、各自にプリントアウトさせるため、その後は、授業中、スクリーンに図や写真などを写して、説明に供するために作成し始めたのだ。そのうち、色々なものがくっつくようになり、いまでは「ボローニャ滞在記」が目玉となっている(らしい)。

でも、最近その滞在記を読みなおしていたら、非常に多くの誤記や誤解に基づく記述、あるいは他人のことについてかなり突っ込んだ内容まで書いてしまっていることに気づき、これは一度整理しなければならないと思い立った。私の文章に書かれた事項や人、あるいはそれらを読んで頭から信じ込んでしまった人など、多くの人に多大な迷惑をかけるからである(もう既に掛けているかもしれない)。精査し、まとめ直してから、再度掲載しなおすことにしよう。

ところで、あのホームページをどのように作成し直したらよいのか。ボローニャ大学の授業を少しだけ覗くと、果たして私のような方法が良いのかどうか、疑問に思えてくる。今の日本の大学では、インターネット等の積極的活用が FD と称して推進されつつあるが、むしろ受講生にとって、不便なくらいの方が良いのかもしれないという思いもある。不便だから工夫する。その工夫の機会と創造力を奪うことにはならないだろうか。もちろんこれはそれぞれの大学の「レベル」によって異なると思うが。さしずめ私のところはどうか。少し不便にしてみようかな。まずは一切板書はしない・・・とか。

(続く)